

経営発達支援計画 令和4年度 評価表

【令和4年4月1日～令和5年3月31日】

【評価指標】
A：達成度 100%以上
B：達成度 80%以上 100%未満
C：達成度 30%以上 80%未満
D：達成度 30%未満
E：未実施

実施期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日（5年間）					
目 標		<p>【10年後の小規模事業者のあるべき姿】</p> <p>1. 円滑な世代交代が進み、若い経営者が増えている。三次市の創業支援制度や有利な融資制度を活用し、新たな事業が創出されている。</p> <p>2. 魅力ある商品（製品）・サービスが売れ、多様な販路が確保できている。</p> <p>1. 事業承継による世代交代や、起業・創業による新たな事業者の創出</p> <p>少子・高齢化の加速による企業の人手不足、廃業が起業を上回る状況は地域の衰退に繋がり、人材の育成と起業の促進は重要である。三次市の施策等を活用し、円滑な事業承継と成功する創業へ繋げる。</p> <p>2. 商品力向上と売れるしくみづくりの構築</p> <p>人口減少等により、地域経済を支える小規模事業者は需要の低下、売上の減少に直面しており、事業者が地域で経営を持続するため、個社のサービス、強み・弱み、顧客ニーズと市場動向等を分析し、ビジネスモデルの再構築と事業計画策定支援を行い、販路拡大により売上の増加、経常利益の向上に繋げる。</p>					
区分	項目	事業の内容	事業実績	令和4年度		評価	
				目標	実績		
I 経営発達支援事業の内容	3-1. 地域経済動向調査に関すること 【P10】	地域経済分析システム RESAS の活用によるデータ収集と分析	地域経済分析システム（RESAS）の活用し、地域の経済動向調査を行った。	公表回数	1回	0回	E 0%
		管内の小規模事業者の景気動向調査の実施	全国商工会連合会が実施する「中小企業景況調査」を31社実施した。また、四半期ごとに提供される「中小企業景況調査報告書」により県内の景況を把握、有効なデータとして事業計画策定等の経営支援の際に活用した。	公表回数	4回	1回	D 25%
	3-2. 需要動向調査に関すること 【P11】	ギフト商品アンケートの実施（7月、12月）	地域内事業者の商品等を詰め合わせたギフト事業を2回実施した。販売の際に、ギフト購入者及び受領者双方に「商品に関するアンケート」を実施した。商品に対するニーズ等を出品者にフィードバックした。	対象事業者数	12社	8社	C 66%
		展示会・商談会アンケートの実施	・山陽自動車道小谷 SAへ3社出展 ・「ビジネスフェア中四国2023」2社出展 アンケートを実施し、商品に対するニーズ等を出品者にフィードバックした。	対象事業者数	4社	5社	A 125%
	4. 経営状況の分析に関すること 【P13】	財務分析、SWOT分析等の経営分析による経営課題の把握	MA1等の記帳データを活用しローカルベンチマークを作成、経営分析をデータ化し、職員全体で情報共有を行った。	分析件数	60件	75件	A 125%
	5. 事業計画の策定支援に関すること 【P14】	実効性のある事業計画策定に向けて支援を行う 【伴】事業計画策定個別相談会	経営分析を踏まえ、実効性のある事業計画策定を支援した。その際、活用可能な支援施策等も提案し、各種補助金等の獲得に繋げた。	策定件数	40件	41件	A 102%
	6. 事業計画策定後の実施支援に関すること 【P15】	事業計画の進捗状況に併せて、計画的にフォローアップを実施	事業計画策定事業者を対象に、フォローアップ時期の設定などスケジュール管理を行い計画的な支援を実施した。	対象事業者数	40件	37件	B 92%
			37事業者に対して123回実施	頻度	180回	123回	C 68%
			事業拡大2社、設備投資14社、資金投入3社、創業4社	売上増加事業者数	28社	23社	B 82%
	7. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること 【P17】	まちゼミの開催	未実施 府中市で開催された、「第1回広島県まちゼミフォーラム in 府中」に参加 参加事業所が減少する中、今後、どう取り組むか実行委員会で協議検討	開催回数	2回	0回	E 0%
参加事業者数				20社	0社	E 0%	
夏冬ギフト事業（ななまちギフト）		地域内事業者の商品等を詰め合わせたギフト事業を7月と12月に実施した。12月は新たに4社が出品し、2種類のギフトを提供することができた。 7月 8社8商品 163個販売 12月 11社11商品 166個販売 ※ななまちギフト報告書参照	実施回数	2回	2回	A 100%	
			参加事業者数	12社	19社	A 158%	

		展示会・商談会出展支援 【伴】PR 冊子ななまちの作成	・山陽自動車道小谷 SA へ出展し商品の PR を行った。 ・「ビジネスフェア中四国 2023」出展支援を行った。 会場では来場者に冊子を配布、商品 PR の販促ツールとして活用した。 出展後、定期的に事後調査を行い成約件数の把握を行った。	出展事業者数	2 社	5 社	A 250%	
				売上額	2 万円	29 万円	A 1,450%	
				成約件数	1 件	0 件	E 0%	
		IT を活用した販売戦略の構築	多様な販売形態を確立するため、その一つである IT を活用した販売戦略の構築を図るため、YouTube、Instagram、公式 LINE の活用事例の「販路開拓セミナー」を開催した。	構築件数	2 社	3 社	A 150%	
Ⅱ 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上	8. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること 【P20】	評価委員会（2 回）の開催 検討委員会（1 回）の開催	・評価委員会 1 回実施 ・検討委員会 1 回実施	開催件数	3 回	2 回	C 66%	
		評価結果の公表	未実施	公表回数	1 回	0 回	E 0%	
	9. 経営指導員の資質向上に関すること 【P21】	各種研修会、セミナーへの参加	三次市、広島県、広島県事業承継ネットワーク主催の研修会に参加した。					
		OJT による支援ノウハウの構築	専門家派遣に同行し、専門家から支援に関する知識や手法を学んだ。					
		職員ミーティング及びスキルアップ研修会の実施	・毎週月曜日、局長・経営指導員会議を開催。 ・職員全体会議を開催し、進捗状況を確認し円滑な事業の実施に向けて情報共有を行った。 ・全職員を対象とした財務分析研修会の開催し、作成したローカルベンチマークを基に分析の手法を学んだ。					
	情報のデータベース化	経営カルテの入力を行い、職員全員が支援状況を共有した。						
10. 他の支援機関との連携を通じた支援のノウハウ等の情報交換に関すること 【P22】	三次市・三次商工会議所・三次広域商工会との業務連絡会議の開催	行政、金融機関、他の支援団体と個別に情報交換を行った。						
	金融機関との情報交換							
	商工会備北地域協議会への出席							
Ⅲ 資する取組 地域経済の活性化に	11. 地域経済の活性化に資する取組 【P22】	地域観光資源の情報発信事業	・みよし観光推進機構（DMO）と連携し、観光情報の共有を行った。また、DMO 主催の「三次めぐりスタンプラリー」の景品として、管内事業者の商品を提供した。 ・観光パンフレットの作成 未実施					
		7 地域の魅力発見事業	三次市と包括協定を結んでいる広島修道大学の学生による 7 地域の魅力発見事業として、令和 4 年度は吉舎地区の商店街を対象に行った。 ※報告書参照					
総 評		<p>【Ⅰ. 経営発達支援事業の内容】</p> <p>長引くコロナの影響に加え、原油価格高騰、物価高騰等で、管内小規模事業者は依然として厳しい経営環境に置かれています。新たな事業展開や経営改善計画が重要と捉え、実行性の高い事業計画を策定に取り組み事業者が増加した。事業計画策定後、事業実施により新規顧客の確保、各種施策や補助金を獲得、売上の増加につながった。</p> <p>販路開拓支援は、管内事業者の商品を詰め合わせたギフトの販売を行ったが、夏冬ともに予定販売数を大幅に上回り好評であった。課題であった、出品事業者の固定化については、新たな出品事業者の発掘を行い、冬ギフトでは新たに 4 事業者が出品。2 種類ギフトの提供が可能となった。</p> <p>商談会・展示会の販促ツールとして作成した PR 冊子「みよし 感じるななまち Ver2」は、内容の充実を図るため、事業者との打ち合わせを綿密に行ったため、作成に時間を要し納期が遅延。配布間もないため、現状商談に至っている事業者はいないものの、冊子や動画の効果により、一般消費者からの問い合わせが増え、売上増加につながった。</p> <p>コロナ禍、展示会への出展を見合わせていたが、3 年ぶりに展示会「ビジネスフェア中四国 2023」へ出展、現在も成約に向けて商談継続中である。出展事業者は、令和 3 年度に作成した PR 冊子「みよし 感じるななまち Ver1」に掲載した 2 事業者で、出展会場で来場者に配布し商品 PR の販促ツールとして活用できた。</p> <p>【Ⅱ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援の向上】</p> <p>積極的に行政、金融機関、他の支援団体と情報交換を行い、経営発達支援事業の円滑な実施に向けて取り組んだ。</p> <p>三次市、三次商工会議所とは、ウイズコロナ、アフターコロナ、原油価格高騰、物価高騰に関して密に情報交換を行い、補助金の制度設計等に向けて取り組むことができた。</p> <p>【Ⅲ. 地域経済の活性化に資する取組】</p> <p>三次市と包括協定を結んでいる広島修道大学の学生と取り組んだ「吉舎地区魅力発掘プロジェクト」は学生と地域事業者の活発な意見交換を行うことができた。引き続き、検証を行い、各個店の売上向上につなげる。</p> <p>令和 3 年度に実施した三良坂地区においても、令和 4 年度も学生がイベントに参加し、7 つの町の特産品を販売し販路開拓及び地域を盛り上げることに貢献した。</p>						